

2025年度「自由を生き抜く実践知大賞」ノミネート一覧 実践事例概要

Noは実践事例名称の五十音順					
0	実践事例名称(50音順)	実践主体	取り組み内容(500文字以内)	実施しての感想(500文字以内)	実践事例資料
1	駅から地域へ、人と人をつなぐ地域社会貢献	東京メトロ飯田橋駅ボランティア	東京メトロ飯田橋駅ボランティアは、東京地下鉄(株)協力のもと、飯田橋駅構内でお客様のご案内業務を行っている。この活動を通して様々なバックグラウンドを持つお客様が1つの飯田橋駅を利用していることに気づき、人と人が交わる場を駅からさらに地域へ広げたいと考えた。そこで、今年度神田神保町の「第36回すずらん祭り」に初参加し、東京メトロ全路線のマークを使った「神経衰弱カードゲーム」を出展した。今回の初参加にあたり、企画立案から準備、企業との交渉まで、すべて学生の手で実施した。特に年少者から高齢者まで幅広い世代が集まる祭りの特性を踏まえ、ふりがなや色覚バリアフリーに配慮された路線マークを使用し、誰もが楽しめるシンプルな内容になるよう工夫した。当日は祭りに訪れた多くのお客様とのゲームを通じ、日頃の駅構内で培ったホスピタリティ経験を活かしたコミュニケーションを実践することで人と人との交流が促進された。さらに、活動と共にした学生同士の交流も深まり、団体の結束が高まった。こうして駅を超え、地域社会に開かれた交流の場を持つことができ、駅から地域へ広がるボランティアの新たな可能性を体現する取り組みとなった。	私たちは日頃の活動を通して駅で多様な人々と接し、「人と人のつながり」を体感している。その中で、駅という日常空間を飛び出し、地域のお祭りに参加したことで、世代を超えたつながりが生まれた。とりわけ、子どもたちが楽しそうにメトロ路線を学ぶ姿や、高齢者からの「学生が祭りに関わってくれるのは嬉しい」という声は、大学ボランティアならではの存在意義を感じた。また、ぼやけて見える路線ロゴの色には、実は色覚多様性への配慮があることを伝えと、驚きの反応があり、日常のちょっとしたマークへの関心を高めることができた。こうしたやりとりを通じて、私たちの活動目的である「多様な人々への理解と共感」を地域に広げられたと感じる。さらに、日頃の駅でのボランティア活動で培った相手に合わせた対応力を活かすことで、円滑に案内を進め、ゲームを分かりやすく説明することができた。同時に子どもに目線を合わせて説明する、親子連れには複数人で対応するなど、主に年少者とのコミュニケーション術において、駅での活動に還元できる点にも気づいた。今後も、駅と地域を、人と人を、つなぐ存在として「自由を生き抜く実践知」を体現できるよう尽力していく。	・法政大学ホームページ https://www.hosei.ac.jp/volunteer/pickup/article-20250610100844/
2	草ストローを用いた高大連携企画	現代福祉学部 佐野竜平ゼミ	2023年10月から2025年にかけて、多摩キャンパスの教員・職員・学生(佐野ゼミ、多摩OCL)が協働しながら、草ストローを用いた高大連携企画を実施した。草ストローは、①100%自然由来の成分②ベトナムの障害者が生産工程に携わっている③使用後はゴミとして処分せず、堆肥にすることができるといった特徴を持っている。このような草ストローを教材として成瀬高校、桜美林高校、工学院大学附属高校と高大連携をし、それぞれの高校の特徴に合わせた企画を実施した。成瀬高校と桜美林高校に「総合的な学習(探究)の時間」の一環であるため、研究の基本である観察、仮説、検証、考察、結論に当てはめて説明した。その後、この中の検証のプロセスの一端であるポスター作成を高校生に担ってもらった。工学院高校はキャリア教育の一環であることと理系要素が強いということで、動画作成ワークと草ストローを土に還す体験を行った。参加した高校生には大学での学びや探究活動を身近に感じてもらったことができた。今後も草ストローが生産されてから、使用され、土として還り、新たな場所で使用されるという「循環型&インクルーシブキャンパス」を実現していきたい。	高校生たちが限られた時間の中で草ストローの魅力を一枚のポスターにまとめようと懸命に考えている姿に、大きな刺激を受けた。キャッチーな一言を生み出そうとしたり、背景を工夫して見やすくしたりと、自分たちの思いを言葉やデザインに凝縮する姿勢から、環境問題やSDGsに真剣に向き合っていることが伝わってきた。短時間で本質をとらえた表現を生み出すのは難しいが、それに挑む高校生たちの姿勢から、私自身も「一言の力」の大切さを改めて実感した。この経験を通じて、高校生が物事の本質を定め、周囲の人に伝えることができるかを経験として積むことは大変意義深いことだと感じている。こうした学びが、彼らの今後の進路選択や社会に出たときの行動につながり、持続可能な未来づくりに貢献するきっかけになることを期待している。さらに、このような高大連携企画は、高校生にとって大学を知る機会や将来を考える契機にもなる。また、自ら考え行動する経験が積み重なることで、将来社会に出たときに大きな力となり、持続可能な未来を切り拓いていく鍵になると考える。今後も引き続き、さらに高校生たちの柔軟な視点を取り入れた企画を続けていきたい。	・桜美林高校と本学学生の交流会を多摩キャンパスで実施しました https://www.hosei.ac.jp/tama/pickup/article-20231207153825/ ・工学院大学附属高校とのゼミ体験会を多摩キャンパスで実施しました https://www.hosei.ac.jp/tama/info/article-20240111171318/ ・【高1】キャリアプロジェクト@法政大学 https://kogakuin-jsh.hatenablog.jp/entry/2024/01/19/102350 ・都立成瀬高校と本学学生との交流会を多摩キャンパスで実施しました https://www.hosei.ac.jp/tama/info/article-20241018101540/
3	実践型高大連携講座の構築・推進	理工学部電気電子工学科・国際高理科共同	国際高・理工学部電気電子工学科で、高校生の研究室体験、及び高校生が研究室の一員として学ぶ探究講座を実施した。 2023年6月に国際高へ出張していた鳥飼先生と落合の立ち話から企画は始まり、2023年11・12月に国際高で行われた「3年4期授業」において、「小金井キャンパス研究室体験」を開講した。その結果、6名の高校生が通って4研究室を体験することができた。その後生徒からの「進路が決まる前の早い段階で、この講座を受けたい」という振り返りをうけ、2024年の8月には、1～2年生を対象として研究室体験を実施、21名の生徒が2日間で8研究室を体験した。ここでは「もっと深く研究室を体験したい」という要望が生徒からあった。 これをうけ、2025年4月～8月に鳥飼研(知能複雑システム研究室)の研究室セミナー(大学3年対象)に高校生が参加できる講座を作り、国際高2・3年生計5名が参加した。高校生は4～8月の長期で輪読やプログラミングを行い、自ら作成した神経モデルの臨床応用を考察するなど、高校生が一研究者として学べる講座となった。現在、伊藤研のPBLにも高校生が参加し、高大連携の規模を拡大している。	講義ではなく「生徒が実際に手を動かしか、実際に触れ、主体的に学ぶ高大連携講座」を作り上げ、実践まで移した点が非常に有意義であった。また高校での単位認定もできる形で実践した点も、評価に値する。 近年では多くの高校や大学が高大連携プログラムを実践しているが、それらは講義やガイダンスなど、生徒が「聞く」スタイルのものが多い。研究室へ参加することで、1～2日で終わるものがほとんどである。その裏には、研究室の負担、機密情報の管理、高大のスケジュール調整など様々な制約があるのだから、本取り組みも多大な労力を要したが、その中で理工学部・国際高各メンバーがよりよい高大連携のため奔走し、生徒が4カ月という長期にわたって研究室へ参加できる連携講座を作りあげた事に、達成感を感じている。これを達成できたのは、時間割の自由度が高い国際高、Zoom等ツールの活用、対等な立場で改善点を伝えてくれる高校生、多忙な中で高大連携のため奔走してくださる理工学部の先生方など、多くの法政らしい自由さがあってこそである。この土壌を活かし、法政全体での教育の発展を目指して、より有機的な高大連携や関連施策を今後も推進していきたい。	
4	就活ラジオ番組『脱力就活』の運営	脱力就活製作委員会	「脱力就活製作委員会」は、法政大学の学生のみ(全35人)で構成され、2023年7月から公放ラジオ「渋谷クロスFM」で学生の就活をテーマにした毎週放送のラジオ番組、『脱力就活』を制作・運営しています。 ミッションは「就職活動の入り口を広げる」ことです。エン・ジャパン株式会社が2025年に実施した調査によると、入社後3年以内の早期離職における要因として、「仕事内容のミスマッチ」が57%、「職場の文化や価値観が合わない」が30%と、キャリア構築にとって前向きではない理由が上位を占めています。脱力就活は、そんな課題を解決するために早期化、複雑化する就活・新卒一括採用市場において、自分らしくキャリア選択を行うことができるきっかけを作ることを目指しています。 MCやゲスト企業のキャスティング、台本作成、SNS運営など番組制作の全工程を学生が担うことで、学生目線のメディアを提供しています。活動内容に共感くださった人のインフルエンサー様をMCに起用し、面白い企業やヒトの魅力を発信することで、楽しく将来や就活について学び、学生に身近で分かりやすい「日本一易しい就活メディア」を目指しています。	私たちは自身が学生であり、課題に関わる当事者であるという点を、活動の最大の強みであり、強い動機としています。脱力就活製作委員会は、自分たちが解決したい課題は何か、学生だからこそできることは何かという問いに本気で向き合い活動しています。 この姿勢は、法政大学憲章に掲げる「自由を生き抜く実践知」をまさに体現するもので、学生主導でラジオ番組を制作・運営するという挑戦自体が、既存の就活メディアの枠にとらわれない進取の気象であり、「真に自由な思考と行動を賞とおす」実践だと考えます。 また、私たちは活動を通じて社会との「つながりの形成」を強く実感しました。ラジオ番組『脱力就活』は、今年7月の放送で100回目を迎えることができました。MCや企業をはじめとする様々な関係者の方から、学生が主体となってフェアに楽しく情報を発信することに共感をいただき、今後も挑戦を続けています。学生だけで取り組む活動でも、想いを持って実践すれば人や社会を動かすことができるのだと私は率直に感動しました。 これらの実践を通して、私たちは社会で活躍する力を養うとともに、社会に貢献する喜びを実感しています。	・番組公式Instagram https://www.instagram.com/datsuryoku_shukatsu?igsh=MWw2YkYhcnYncnM5W9vNw== ・ウェブホームページ https://shibuyacrossfm.jp/program/sun/21.php
5	受刑者の社会復帰を子どもと考える共生教育	キャリアデザイン学部遠藤ゼミ有志8名	2025年9月、山口県美祢市立豊田前小学校、大嶺中学校にて、「社会復帰した受刑者と共生できるか」というワークショップを、遠藤ゼミ有志8名が行った。法務省や山口大学との共同プロジェクトで、学区内にある刑務所に収容されている受刑者との、フラワーアレンジメントの贈呈という交流の意味を考えるものであった。これに向けて3月から半年間、大学生は各地の刑務所や関係機関を取材し、受刑者にもインタビューを行った。22本の調査をもとに、小学生、中学生向けのプログラムを策定した。犯罪者の社会復帰を妨げるものに社会の偏見があり、いかに彼らを受け入れなければならない社会課題であると同時に、悪いことをしてはいけないという道徳と相反しかねないテーマでもあり、学校教育にてこれを取り扱われたことはなかった。今回も、教育委員会や学校関係者の戸惑いもあったが、くり返し協議を重ねながら相互理解を深めた。プログラムでは子どもたちは真剣に難しい問いに向き合い、最後は子どもたちが受刑者に書いたメッセージを大学生が届けるという形でプロジェクトは閉幕。法務省によれば、刑務所と学校が受刑者を軸につなぐことは、全国初の画期的な試みだった。	プロジェクトが立ち上がったとき、大学生の参加は任意としたが、思いがけず多くの立候補者がいた。異文化圏交流、障害者支援、LGBTQ当事者の生活障害の除去、共生には様々な側面があるが、「犯罪を犯した人たちの今後の支援」は、参加する大学生にとっても、身の安全に対する心配もあれば、テーマの重さもあり、取り組みにくいプロジェクトであった。自分の偏見と向き合いたい、自分の生きづらさを考え直したい、身近に当事者がいる、など様々な動機で参加したが、単位も評価も出ないにもかかわらず、真剣に取り組んだ。価値観のぶつかるテーマであり、様々な関係者と意見がぶつかり、否定されることも多く経験し、悔し涙を流しながらも最後まで挑み続ける様子に、成長を感じた。大学生たちは、多くの大人たちの価値観の多様さ、無自覚だった自身の偏見、ゼロからのことをつくり出す苦しさや面白さなど、多くの学びを得た活動であった。当初はゼミ独自の取り組みであったが、途中で法務省の関心も呼び、次年度以降継続の方針になったことは、参加学生にとって大きな誇りとなった。	・美祢市ホームページ https://www.2.city.mine.lg.jp/soshiki/somubu/chihouso/uei/kvousouseiuei/11984.html https://www.2.city.mine.lg.jp/soshiki/somubu/chihouso/uei/kvousouseiuei/12653.html
6	セクシャルマイノリティ&アライの居場所	法政レインボーほっとらウンジ学生スタッフ	法政レインボーほっとらウンジは、セクシュアルマイノリティや、そうかも？と思っている人&アライのための居場所である。 2024年のDiversity weeksの企画の1つとして、学生が主体となって企画、実施し、2025年度から定期的に対面とオンラインで交流会を開催している。これまで性的マイノリティ当事者が安心して交流できる空間が法政大学にはなかったため、学生が企画した。対面交流会は市ヶ谷キャンパスのDEIセクターを中心に、法政大学の学部生、大学院生、通信教育部生も参加することができる。ウンジには「おしゃべりスペース」と「静かにのんびりスペース」があり、市ヶ谷キャンパスだけでなく今年の7月には多摩キャンパスで、10月には小金井キャンパスで交流会を開催したことで3つのキャンパスを超えて繋がりを作っている。オンライン交流会でも多様な経験を持った学生が集まり、交流が生まれている。 誰もが「ほっと」安心して参加できるように対面、オンライン問わずグラウンドルールを作成し、各キャンパスから集まった有志の学生がスタッフとして活動している。	ここでは「ほっと」できる居場所としてだけでなく、その場に集まる学生の多様な声を直接聞くことで、感覚的な理解が得られ、自らの共感の幅が大きく広がっていくことを実感できる場所でもある。 また、穏やかな空間の中で参加者同士が互いの経験や想いを率直に語り合ううちに、これまで抱いていた漠然とした理解がより具体的な言葉や表情を通じて深まっていくのを強く感じる。 特に、グラウンドルールによって守られた交流会は、多様なアイデンティティを尊重する土台を得る助けとなり、自らの無意識バイアスに気づき言動にどう反映させるかを考える貴重な契機となる。さらに活動が継続的に行われていることから、私にとってこの場所は自分自身の立場や言葉の使い方を常に見直し続ける場にもなっている。(Aさん) 近年、「多様性」が重視されるようになった世の中だが、その言葉だけがひとり歩きして、本質の多様性を実現できていない人は少ないと思う。多くの方と交流できるレインボーほっとらウンジでは、様々な意見があり、互いを尊重できる安全な環境だ。この活動を通して、安全で公平な環境を整備することで多様性を実現できるのではないかと考える。(Bさん)	・「正式名称:法政レインボーほっとらウンジ ～セクシュアルマイノリティや、そうかも？と思っている人&アライのための居場所」 ・【開催報告】5月、6月の法政レインボーほっとらウンジ https://www.hosei.ac.jp/diversity/info/article-20250718151839/ ・【開催報告】7月多摩キャンパス 法政レインボーほっとらウンジ https://www.hosei.ac.jp/diversity/info/article-20250718154142/ ・【開催報告】8月の法政レインボーほっとらウンジ https://www.hosei.ac.jp/diversity/info/article-20250903103413/ ・HOSEI DIVERSITY WEEKs 特設ページ 法政レインボーほっとらウンジ ～セクシュアルマイノリティや、そうかも？と思っている人&アライのための居場所 https://www.hosei.ac.jp/diversity/event/hosei-diversity-weeks/106394/ ・「DEIセクター イベントin 小金井の開催(10/6～10/7)」 https://www.hosei.ac.jp/diversity/info/article-20250912152651/ ・「【10月 11月 市ヶ谷・オンライン開催】法政レインボーほっとらウンジ」 https://www.hosei.ac.jp/diversity/info/article-20251006104052/ ・「HOSEI DIVERSITY WEEKs 2025 特設ページ」(11月・12月 法政レインボーほっとらウンジ 交流会のお知らせ含む) https://www.hosei.ac.jp/diversity/event/hosei-diversity-weeks/
7	100円モーニング	Team Ethical	2024年12月10日から13日の4日間で、多摩キャンパス・エッグドーム2階にあるスローワールドカフェにて、「NPO法人やまほろし」さんの協力のもと、「たまらほ佐野川プロジェクト」と連携し、「Team Ethical by ホーセイ・バージョンクラブ」主催で「100円モーニング」企画を実施した。SIC教員プロジェクト「スポーツブランディングクラブ」からの資金支援を得て、1食あたり500円相当の内容を100円で提供し、学生に朝食の習慣づけと交流の場を提供することを目的とした。各日30食限定でうち15食は事前予約制とし、当キャンパスのスポーツ健康学部卒業生である管理栄養士の監修のもと佐野川茶を活用した献立を発売し、前半2日間はスコーン、後半はお茶漬けを提供し、広くから利用者を得られ、全日程分完売。 また、この事前告知イベントとして同様の協力を得て、12月4日から6日の3日間で佐野川茶を使用した抹茶ラテの販売も行った。 2025年度も同様に12月開催を予定しており、今回は町田市農業協同組合「アグリハウスさかい」さんの協力を得て、地元野菜を活用したメニューでの開催を想定している。	学生に朝食の重要性を伝えるとともに、栄養バランスの整った食事を通じて、新たな交流の場としても機能したいと感じている。参加者からは「食室が開いていない時間帯に安価でしっかりとした食事を取ることができて有り難かった」「いまでは朝食を食べないが、このイベントで栄養満点の朝食を取りながら朝から充実した時間を過ごせた」との声も寄せられた。また、開催時間が10時～11時と1限の授業時間と重なっていたため、通学各コマの授業開始時間前に混雑してしまいがちな最寄り駅と多摩キャンパスを繋ぐバスの混雑緩和にもつながっていたとの意見もあり、思わぬ副次的効果も得られたことが嬉しく感じた。今後も、地域と連携しながら学生の生活環境を支える取り組みを継続・発展させていきたいと考えている。	・朝日新聞「think キャンパス」 https://www.asahi.com/thinkcampus/pr_hosei/2/ ・法政大学ホームページ https://www.hosei.ac.jp/sdgs/info/article-20241207182312/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bdcf54
8	PtoB環境チームのマイボール推進活動	SASH/PtoB環境チーム	現在、海洋プラスチック問題が深刻化しており、2050年には魚の量を上回ると言われています。この現状に危機感を覚え、有志学生によって2022年にマイボール推進Pが立ち上げられました。活動当初は学生内に給水ポットがなく、ペットボトルで補充する以外に手段がありませんでした。そこでマイボール利用実態調査の実施、SDGs WEEKsではアクアクラブ横やりウォーターサーバーを提供していたが、多くの学生に給水体験をしていただきました。これらのことから学内給水器のニーズを確認し、様々な課題を学内部署と連携しながら解決し、約1年の月日を経て学内初回のマイボール専用給水器を設置しました。設置直後の利用調査では1週間で約300回利用され、休み時間には列ができるほどの好評で、多くの学生の要望に応えることができた。廃棄プラスチック削減にも貢献することができたと確信しています。上記の活動以外にも、SDGs WEEKsや学園祭、マイボールフォトコンテストなど、学内外の学生団体、企業との共創企画に積極的に取り組み、日々新しい価値を創造しています。今後も活動が持続可能なものであり続けるよう、より一層努力してまいります。	この活動は全くの新しいプロジェクトとして始動したことから、最初の半年間はチームブランディングや学内などでどのようにしてマイボールを普及させるかをサポート企業様と一緒に考えてきました。それから様々な活動を展開していく上でマイボール給水ポットの設置必要性を感じ、いくつもの課題をチームメンバー、学内部署と打ち合わせを重ね、設置することができました。これはチームメンバーの最後まで諦めない強い思いと学内部署の協力があったからこそ実現したことだと思います。給水ポット以外の活動でも学内外の学生団体と連携する機会が多くありますが、同じ思いをもった仲間がいるからこそ実現できることがあり、これまでもいかに新しいものを創造することができたと実感しました。しかし、それはこの活動に賛同し、協力してくださる大学職員の方や企業様がいてくださるお陰であることも忘れて、今後も活動を続けていきたいと思います。	①法政大学ホームページ https://www.hosei.ac.jp/sdgs/info/article-20241009134754/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bdcf54 ②法政大学ホームページ https://www.hosei.ac.jp/sdgs/info/article-20250625120301/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bdcf54 ③X https://x.com/hosei_ptob
9	不登校支援と「登校・学習支援室」の開設	法政大学中学高等学校	法政大学中学高等学校では2024年度に「学校に行きづらい・休みがち・不登校の子の保護者の集い」を2回開催し、今年度も5回の開催を予定している。この集いは、学校に行かない、行きたいのに行けないというお子様を持つ保護者を対象とし、同じような経験を持つ仲間と出会い、経験や気持ちを持ち共有できる場を提供している。養護教諭とカウンセラーの他、教職員有志と卒業生保護者も参加し、大きな不安の中にいる保護者に寄り添っている。過去に不登校の経験者を引き、当時の経験を共有する機会も設けた。「登校・学習支援室」を2025年4月に開設した。現代福祉学部と連携し、心理実践実習の実習先として学部生と院生が派遣され、学生がスタッフとして支援室に貢献してくれている。「様々な理由で教室に入りにくい生徒の居場所としての登校支援および学習支援」「学習に困難を抱える生徒への学び方支援」「ソーシャル・スキル・トレーニング」を提供する場としてスタートした。4月から8月末日までの利用者数は延べ88人(実人数:登校支援5名、学習支援2名、学び方支援4名)で、登校できない生徒にはオンラインでの学習支援も行った。	近年、不登校状態にある生徒や保健室登校の件数が増加していた。ご家庭も教員も不安や負担が大きくなり、どう対応に良いか分からず模索する状況で、何かできないかとと思案し、この取り組みを開始した。 保護者の集いは「心が軽くなった」と感想を頂き、状況がすぐに変わらなくとも、保護者の心の重荷を少し下ろすことができたのではないかと感じている。 支援室の開設は見切り発車であったが、現代福祉学部のご協力のおかげで実現に至った。本来は、登校できない生徒の居場所として機能させたかったが、不登校状態にある生徒が支援室を利用するまでには、いくつもの超えなくてはならない壁があり、支援室ができたからと言って、すぐに利用できるというものではなかったことを痛感した。しかし、実習生と共に柔軟に運営し、登校できない生徒もオンラインで支援をするなど、色々な形を模索しているところである。また、学び方支援へのニーズが高く、不登校状態だけでなく様々な支援を必要としていることを実感した。縁あって入学した生徒たちの誰もが排除されることなく、その人らしく生き生きと学校生活が送れるよう、試行錯誤しながら支援を継続していきたい。	(1) 2024年度第1回保護者の集い https://www.hosei.ed.jp/news/event/20241218.html (2) 2024年度第2回保護者の集い https://www.hosei.ed.jp/news/event/20250128.html (3) 2025年度第1回保護者の集い https://www.hosei.ed.jp/news/event/20250430.html
10	法政スポーツを支える学生トレーナー	スポーツ健康学部 泉ゼミ&AT養成課程	本ゼミでは学部設立の2009年から、スポーツ分野で活躍できるアスレティックトレーナーの養成に取り組んできました。その一環として体育会や他の法政スポーツでの学生トレーナー活動を推奨し、これまでに150名を超える卒業生が現場経験を積み、現在も20名以上の学生が積極的に活動しています。さらに、学部内に設置されたAT・ROOMを拠点に、授業やゼミで学んだ知識と技術を実践的に活かす環境が整っています。ここではコンディショニングやコンディショニングのサポートに加え、学生同士、そしてアスリートとの間で刺激し合いながら成長する機会が自然に育まれています。また、学生トレーナーは多摩キャンパススポーツフェスティバルのサポートにも携わり、イベント全体の安全と盛り上げに貢献しています。こうした幅広い経験は、アスリートの競技復帰を支えるだけでなく、学生自身の問題解決力を鍛え、社会で生かせる力へとつながります。その成果は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験の高い合格率にも表れており、学生たちは確実に成長を遂げています。	これまでの取り組みを通じて、学生たちは知識をただ覚えるのではなく、現場で試行錯誤しながら自ら課題を見つけ、解決に挑む力を身につけてきました。基礎的な医学・スポーツ科学的知識を学び、それを自分自身の競技や学生トレーナーとしての活動に結びつけることで、理解を確かなものにしていきます。さらに、自分の競技にとどまらず、さまざまな種目や年代のスポーツを観察・分析し、広い視野を養っている姿は頼もしく感じます。また、エクササイズやトレーニングを自ら実践し、その効果を体感してから他者に伝える姿勢は、説得力のある指導につながっています。こうした実践を重ねた学生は、卒業後でも現場の課題をテーマに掘え、自ら考え抜いて成果をまとめあげています。その過程で育つのは、専門性と柔軟な思考を兼ね備えた人材です。卒業後はトップアスリートの現場に限らず、教育や地域、ビジネスなど多様な分野で「人の健康や生活を支える力」を発揮しています。まさに「自由を生き抜く実践知」の大学憲章を体現し、社会に貢献できる学生が育っていると実感しています。	・「法政大学」法政スポーツを支える「学生トレーナー」 https://youtu.be/HfkuNSX78f8?si=G8pSj6iNSxvB1JWg ・法政大学HP:アスレティックトレーナー(スポーツ健康学部 泉重樹ゼミ) https://www.hosei.ac.jp/koho/zemi/100531/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bdcf54 ・法政大学HP 第41回スポーツフェスティバル健生も参加しました！！ https://www.hosei.ac.jp/sports/info/article-20240603104813/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bdcf54